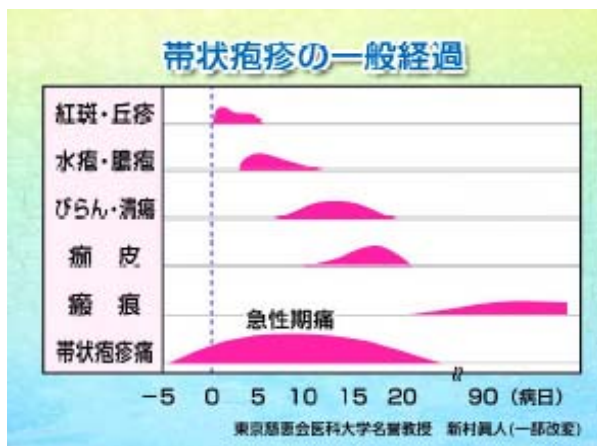


帯状疱疹とは

飛沫感染ではなく接触性の感染であり、水疱の中に存在する水痘・帯状疱疹ウイルスが気道の中で増殖して水痘となる。

水痘罹患後に三叉神経または脊髄後根神経節内に潜伏感染している水痘・帯状疱疹ウイルスが再活性化、増殖して発症する。ウイルス再活性化のメカニズムは不明。

水痘罹患者の約 30%に、平均 30~40 年経過した後に発症する。特に 60 歳以上に多く見られる。神経支配領域に一致して疼痛が先行することが多い。帯状に分布する浮腫性紅斑と小水疱。



合併症

- 三叉神経に帯状疱疹ができたときは注意が必要である。髄膜炎、脳炎にいたるおそれもある。
- 目の中にできると角膜炎や結膜炎を併発し失明に至ることもある。
- 耳の中にできると耳鳴り・眩暈などの後遺症を残すこともある。
- 顔面神経（耳介、外耳道に小水疱）に帯状疱疹ができることがあり、顔面神経麻痺（ラムゼイ・ハント症候群）にいたることがある。
- 帯状疱疹後神経痛

治療

- アシクロビル（ゾビラックス）やピダラビン（アラセナA）、ファムシクロビル（ファムビル）という抗ウイルス薬、アシクロビルのプロドラッグであるバラシクロビル塩酸塩（バルトレックス）
- 皮膚症状に対しては抗ウイルス薬の軟膏塗布（アシクロビル軟膏など）が効果的
- 神経痛様疼痛に対する治療法は確立していない。必要に応じ対症療法として神経節ブロック、理学療法、非ステロイド性抗炎症薬、抗うつ剤、抗けいれん薬、レーザー治療など

帯状疱疹予防は

60 歳以上の人に帯状疱疹の予防目的で、水痘ワクチン